

気象庁・名古屋地方気象台の防災支援の取組



令和3年5月28日
豊川圏域大規模氾濫減災総合サミット
名古屋地方気象台

防災気象情報の改善について

○「伝え方検討会」を踏まえ、以下の取組みを令和3年度出水期を目途に実施

1 記録的短時間大雨情報の改善【別紙1】

記録的短時間大雨情報を、当該市町村が警戒レベル4相当の状況となっている場合のみ発表することで、災害発生危険度が急激に上昇し、速やかな安全確保が必要な状況となっていることを適切に伝えられるように改善

2 「危険度通知サービス」の細分化【別紙2】

政令指定都市について、よりきめ細かい区単位で通知を開始
なお、市町村の避難勧告の発令単位等に合わせて市町村をいくつかに分けて通知の提供に向けて検討を進める

3 警戒レベルに対応した高潮警報に改善【別紙3】

自治体や住民が高潮警報のみで避難が必要とされる警戒レベル4に相当しているかを判断できるよう、暴風警報発表中の「高潮警報に切り替える可能性が高い注意報」を高潮警報として発表するよう改善

4 「予報官コメント」の公表【別紙4】

これまで防災情報提供システムで提供していた「予報官コメント」を、「気象台からのコメント」として気象庁ホームページで提供

→ 令和3年2月24日から開始済み

【令和3年出水期前を目途に実施】

- 記録的短時間大雨情報は、大雨警報発表中に、現在の降雨がその地域にとって土砂災害や浸水害、中小河川の洪水災害の発生につながるような、稀にしか観測しない雨量であることを伝えることで、どこで災害発生の危険度が高まっているかを「危険度分布」で確認し、自主的な安全確保の判断を促すもの。
- 記録的短時間大雨情報を、当該市町村が警戒レベル4相当の状況となっている場合にのみ発表することで、災害発生の危険度が急激に上昇し、速やかな安全確保が必要な状況となっていることを適切に伝えられるように改善。

これまで

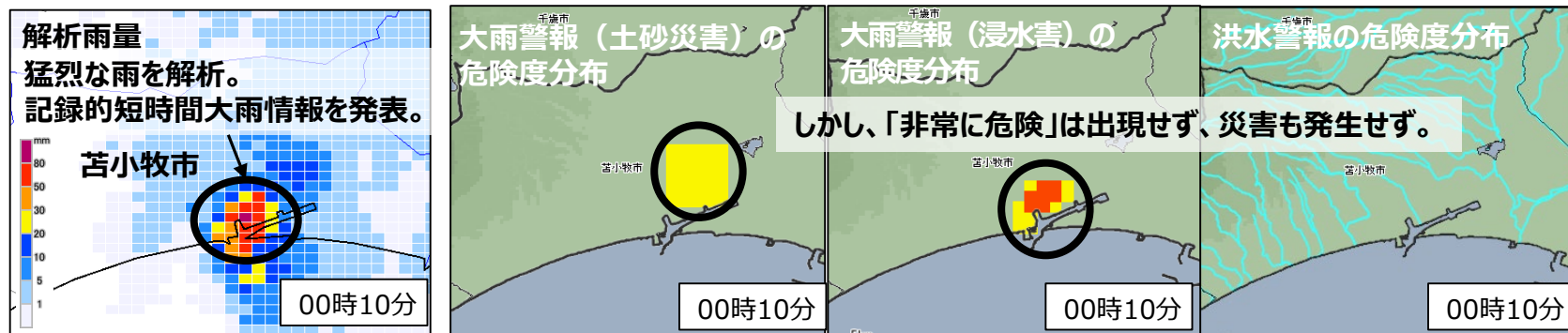
大雨警報を発表中に、記録的短時間大雨情報の基準に到達したときに発表。

災害発生と結びつきが強い情報に改善

改善後

危険度分布で「非常に危険」(警戒レベル4相当)以上が出現し、記録的短時間大雨情報の基準に到達したときにのみ発表する。

令和元年11月12日の胆振地方の例



「危険度分布」の危険度を発表条件に加えることで、災害発生の危険度が急激に上昇し、速やかな安全確保が必要な状況となっていることが伝わるように改善。

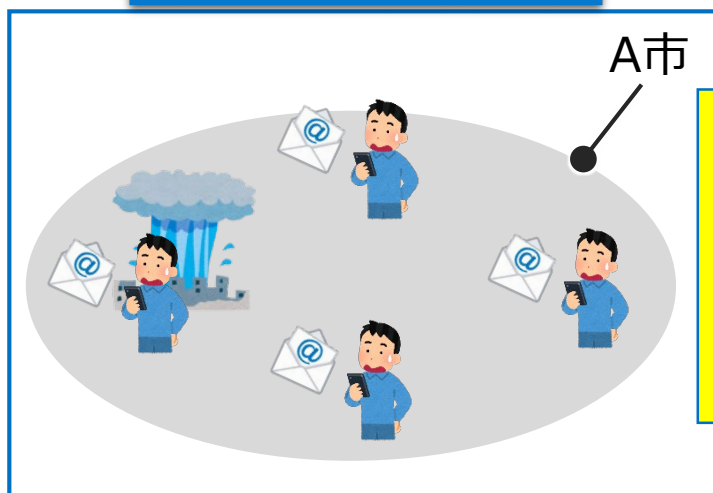
「危険度分布」の通知サービスの細分化について

- 住民の自主的な避難の判断によりつながるよう、「危険度分布」の通知サービスについて、政令指定都市については、よりきめ細かい区単位でも通知を開始。【令和3年出水期前を目途に実施】

改善の方向性（案）

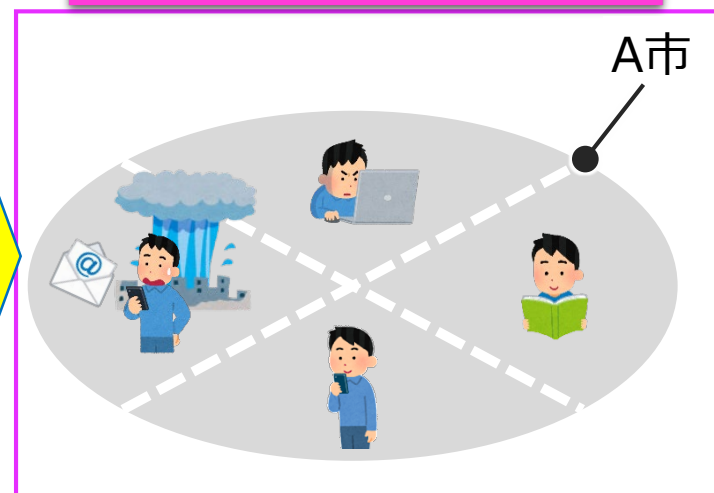
- 危険度通知サービスの通知単位の細分化も含めた検討。 **今回の改善**
- ✓ 政令指定都市については、よりきめ細かい区単位でも通知を開始。
 - ✓ 併せて、1kmメッシュの「危険度分布」そのものを活用した、きめ細かな通知についても促進。
 - ✓ 市町村における避難勧告の発令単位の検討に気象台も積極的に協力し、準備が整った地域から発令単位等に合わせて市町村をいくつかに分けた通知を開始。（中長期的に検討を進める）

現状



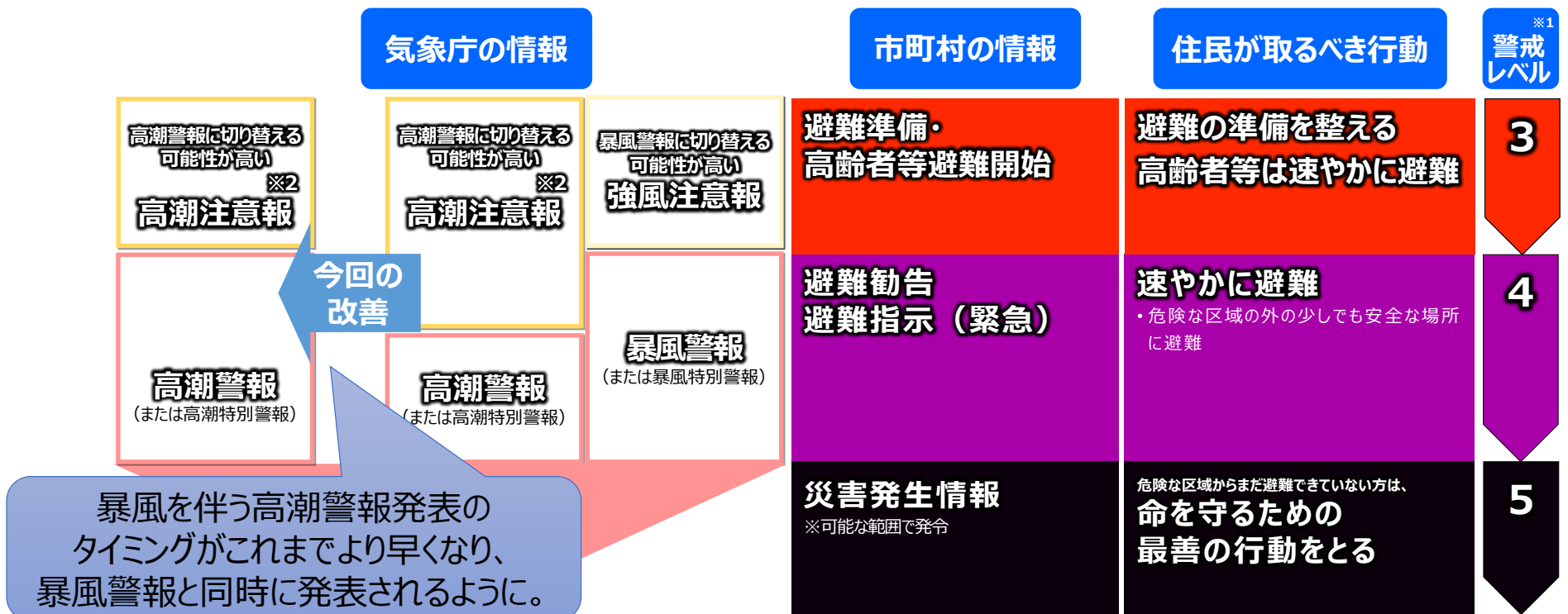
市町村の避難勧告の
発令単位等に合わせて
市町村をいくつか
細分した通知の提供に
向けて検討を進める

改善後のイメージ（案）



高潮警報がこれまでより早いタイミングで発表

- 暴風警報発表中の「高潮警報に切り替える注意報」が高潮警報として発表されることにより、これまでより早いタイミングで高潮警報が発表されるようになります。
- ✓ 警報のリードタイム（猶予時間）は、防災関係機関や住民に伝わり安全確保行動がとられるまでにかかる時間を考慮して設けている。
- ✓ これまで高潮警報は、重大な災害が発生するような警報級の高潮が概ね3～6時間先に予想されるときに発表していた。
- ✓ 潮位が上昇する前の暴風も考慮する必要があるため、暴風警報と同時に発表されるようにすることで高潮警報のリードタイムが長くなる。



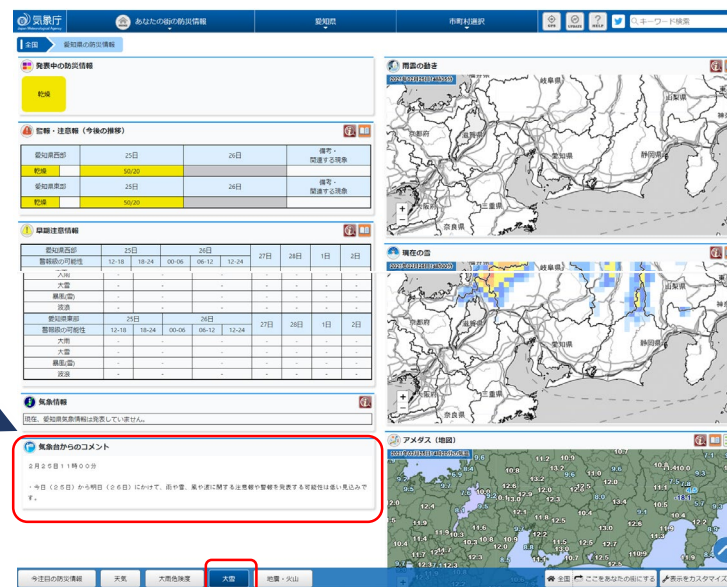
※1 警戒レベルについては、内閣府ホームページ（http://www.bousai.go.jp/oukyu/hinankankoku/h30_hinankankoku_guideline/index.html）をご覧ください。
 ※2 夜間～翌日早朝までに高潮警報に切り替える可能性が高い注意報は、避難勧告（警戒レベル4）に相当します。

- 現在、防災情報提供システムで表示している「予報官コメント」について、「気象台からのコメント」として気象庁ホームページで表示を開始しました（令和3年2月24日）。
- これまでと同様※2、早めの防災体制構築等の防災対応に役立てていただけるよう、現場の予報官等の最新の解説を確認することができます。
- 自治体のみなさまのみを対象とした「メール」や「電話連絡（ホットライン）」等による解説は、これまでどおり実施します。

解説内容の例

- 土砂災害警戒情報・警報・注意報を公表する見込みがあるのかないのか、いつ解除するのか。
- 警報級の可能性を[中]としている理由。
- 現象のピークなどの気象状況。
- 今日注目すべきコンテンツ。

「気象台からのコメント」のイメージ



「大雪」を選択すると「気象台からのコメント」がデフォルトで表示されます。カスタマイズ機能で表示させることもできます。